



ベトナム人学生の視点から見る日本の魅力

米山奨学生 レートウイチャンさん

日本とベトナムは、東アジアにおける歴史的・地理的な近さから、多くの文化的共通点を持っています。しかし、人々の生活、仕事、交流の仕方には明確な違いもあります。私はベトナム出身の留学生として日本で生活する中で、特に「コミュニケーションのスタイル」「社会的な序列」「職場文化」の違いを実感してきました。こうした違いを理解することで、日本での生活に適応すると同時に、ベトナム文化への愛着も深まりました。

■コミュニケーションのスタイル

日本文化とベトナム文化の最も顕著な違いの一つは、コミュニケーションの方法です。日本では、間接的な表現が重視され、非言語的な合図や文脈を読み取る「高コンテキスト・コミュニケーション」が一般的です。一方、ベトナムでは、より直接的に考えや感情を表現する傾向があります。

例えば、日本の飲食店で働いていたとき、日本人のお客様はサービスに不満を持っていても、直接的に苦情を言うことは少なく、身振りや言葉の選び方で控えめに示すことが多いと感じました。しかし、ベトナムでは、お客様が良い点も悪い点も率直に伝えることが一般的です。この経験から、日本では「言葉にされていないメッセージを読み取ること」が重要であると学びました。日本人が何かを言わない時でも、その背後にある意図を推測することが大切だと感じました。

■社会的な序列と敬意

日本とベトナムの両国とも、社会的な序列を重んじる文化がありますが、その表れ方には違いがあります。日本では、敬語（敬語表現）の使用が非常に重要であり、上司、同僚、後輩に対する言葉遣いが明確に区別されます。一方、ベトナムでも年長者や権威者への敬意は大切にされますが、比較的フレンドリーで、関係が早く打ち解けやすい傾向があります。

日本の同僚とプロジェクトを進めた際には、丁寧な言葉遣いを心掛け、年上のメンバーが発言するのを待つことが重要でした。それに対し、ベトナムで就職フェアを運営した際には、年下のメンバーも上司の前で自由に意見を述べるのが一般的でした。こうした違いを理解することで、異なる文化圏での仕事や人間関係をよりスムーズに築けるようになりました。ベトナムでは、年齢や立場に関係なく、誰もが意見を言いやすい環境が整っています。

■職場文化：集団志向 vs. 個人の自主性

日本の職場では、グループの調和や合意形成が重視され、意思決定は集団で行われることが多いです。一方、ベトナムの職場では、チームワークを大切にしながらも、個人の自主性や柔軟性がより求められます。

例えば、日本のUDトラックスでのインターンシップでは、会議が事前に綿密に計画され、全員の意見が慎重に考慮された上で決定が下されるのを目の当たりにしました。一方、ベトナムでイベントの企画や文房具販売のビジネスを運営した際には、状況の変化に応じて迅速に判断し、柔軟に対応することが求められました。この違いは、日本の「長期的な計画重視」とベトナムの「即応

性と起業精神」の違いを反映しています。日本では、計画を立てる過程が重要視されるのに対し、ベトナムでは迅速な行動力が重視されます。



■異文化への適応

私は日本で生活してから3年が経ちました。異文化の中で生活することは避けられませんが、日本文化への大きな興味を持ち、もっと学び、日本に適応しようと努めています。日本の文化や習慣を理解することは、時に難しいと感じることもありますが、その過程でたくさんの成長を感じています。例えば、日本の礼儀やマナーに対する徹底した理解を深めることで、日本人とのコミュニケーションがスムーズになり、より良い関係を築けるようになりました。また、言語や文化の違いを乗り越えることで、逆に自分のアイデンティティも強くなり、ベトナムの文化に対する誇りも深まりました。

■結論

日本とベトナム、両方の文化を経験することで、それぞれの強みをより深く理解することができました。日本の調和、敬意、綿密な計画性は、忍耐力と正確性の大切さを教えてくれました。一方、ベトナムの率直なコミュニケーションと柔軟な仕事文化は、適応力や自己表現の重要性を再認識させてくれました。これらの文化的洞察は、私自身の成長に大きく影響を与えただけでなく、日本とベトナムの架け橋となり、相互理解と文化交流を深める助けにもなっています。今後も両国の良いところを取り入れ、グローバルな視野を持ちながら成長し続けたいと思います。

